

ドキュメンタリー映画

「空想の森」 上映会報告

高崎市 竹渕 進

100名の来場者

昨年12月14日中医研2階

ホールで「空想の森」の上映会をしました。「空想の森」は田代陽子氏第一回監督作品。北海道帯広近郊の新得が舞台のドキュメンタリー映画。そのチラシに「農あるくらし、重ねた時間と陽の匂い。」とあるように広い大地で農をいとなむ家族の1年がたんたと描かれた映画です。畑の土の上に座らされた赤ん坊、大声で泣きながらにじり寄るすがたに声かけをしながら草取りをつづける母親。どろのついた赤ん坊の口もとと母親のまなざしが大地に広がる空気に溶けてゆきます。

あたたかい雰囲気の上映会

北海道で就農して30年、子供たちも独立し今は夫婦ふたりで有機農業をつづける夫婦。「がんでなければ百姓なんてやってられん。」と薪で沸かした風呂に入る夫、北海道の雪も溶かしそうなほんわかした感じの妻。会場のスクリーンまえに敷いたカーベットのうえで泣いたり笑ったりする子供たちも映画のなかではないかと錯覚するようなどてもあたたかい雰囲気の上映会になりました。

当日はあいにくの雨にもかかわらず、午前、午後2回上映で合わせて約100名の来場者がありました。実行委員会を作り二ヶ月前からチラシづくりやチ

ケットの販売をしてきました。すべて手作りの上映会をスタッフそれぞれが得意分野をいかして関わってくれました。映画のすばらしさもさることながら、私はこの上映会までのプロセスで多くの出会いと興奮をいただきました。ほんとうにありがとうございました。

今回の上映会には監督の田代陽子さんが北海道より来てくださいました。田代監督は「空想の森」を上映する会場には全国どこへでも自ら出向くのだそうです。上映後の質疑応答では感想などたくさん発言があり答える監督のことばには、わが子のようにこの映画を愛している様子が伺えました。上映会終了後は監督をかこんでの打ち上げ、盛り上がったことはいまでもありません。

目の前の世界と

関われる「農」へ

近年「農」ということが注目を集めています。この映画の

テーマのひとつも農的くらしです。身近に少しの土地があれば種が蒔けます。なければプランターでもよし。野にある草やつるを加工すれば繊維を取ったり小さな袋を作ることができます。目の前にある自然に自ら手を加え観察し共感してゆくことが「農」ということだと思えます。バーチャルなものがあふれ、経済の嵐が吹き荒れているいまこそ、目の前の世界とありありと関われる「農」が大切なんだと思います。

「ふれあい朝市」開催中!

毎月(第1・9時~12時)日曜日に野菜、雑貨などをたくさん取り揃えてお待ちしております。

「オープンファーム」(農体験)開催中!

毎月一回、倉渕の農家さんと一緒に農作業のお手伝いをしながらゆっくり過ごす1日です。

☎ 090-1741-5795 鈴木まで